連載

熱海市立図書館 100年のあゆみ

第8回 100周年を迎えた熱海市立図書館

問い合わせ：熱海市立図書館
☎0557(86)6591

大正4年11月10日に大正天皇御大典の記念事業として創立された「熱海町立図書館」が、平成27年11月10日で100周年を迎えました。

熱海市民の文化の発信地である「熱海市立図書館」は、平成12年、懸案であった図書館の電算化システムが導入され、蔵書管理や図書の貸し出し・返却が簡単になるとともに、県立中央図書館をはじめ県内各地の図書館との連携も密になるなど、総合的なサービスが可能となりました。

そして、なじみ深かった文化会館での49年間にわたる活動を終え、熱海市役所の総合的な庁舎移転計画の中で、平成19年、熱海の海が一望できる東京電力（株）所有の建物の3階～5階を借り受け、現在の図書館に移転しました。駐車場、エレベーター、障がい者用のトイレ、冷暖房施設、学習室、会議室、和室などが完備された図書館となりました。

移転時の蔵書数は16万7055冊、図書館が創立された100年前の蔵書数5657冊と比較しても歴史の重みが感じられます。そればかりではありません。熱海市立図書館の書庫には、坪内逍遙をはじめ多くの理解ある人によって寄贈された草創期当時の図書が、現在でも大切に所管され、皆さんの貸し出しを待っているのです。これも大きな自慢です。

熱海市は温泉と観光の街です。逍遙の残した蔵書や観光資料をはじめ、これまで集められた歴史資料は熱海の大切な財産として所蔵されています。現在では熱海市立図書館のシンボルとして4階の中央部に「温泉資料コーナー」を常設し、温泉の資料を集約することにより、一人でも多くの人に温泉の魅力を知ってもらえるようにしました。

温泉資料コーナー

現在の図書館に移転し、大勢の市民の皆さんがボランティアとして参加するようになりました。

創立当時は洋装本1冊、和装本2冊以内だった貸し出しも、昭和50年代には6冊以内、現在は10冊以内となり、利用者にとっては大変便利になりました。また、図書館利用者カードの対象も、以前は小学生からでしたが、現在ではゼロ歳児からの利用が可能となりました。お母さんと子どもたちが周囲を気にしないで話をすることができる「会話ができる児童室（試行）」も始まりました。

会話ができる児童室の様子

さらに、資料検索に利用できるコンピュータの設置やAV資料の閲覧・貸し出しなど、近代的な図書館に要求される機能の充実にも努め、現在、登録者数約1万5000人、年間利用者数約3万8000人、年間貸し出し約13万冊の図書館に成長しました。

市長メッセージ 94

ソーラン節

熱海市長　齊藤　栄

長年にわたり熱海市の発展に寄与されてきた高齢者の皆さんに感謝の意を表するために「敬老大会」を開催しています。私も高齢者の皆さんと過ごす時間を楽しみにしており、余興の披露もしています。これまでジャズの演奏に合わせて「お嫁においで」を歌ったり、「上を向いて歩こう」を歌いながら保育園児と踊ったりしましたが、今年は皆さんと一緒に歌える民謡「ソーラン節」に挑戦しました。

ソーラン節はニシン漁を歌った北海道の有名な民謡ですが、民謡を歌った経験がなかった私は、牛追い会の紺野公也先生のところに数回通い特訓をしていただきました。民謡の節回しに慣れていないこともあって、三味線の伴奏に合わせて歌おうにもなかなか声が出ず、「もっとお腹に力を入れて」と指導されました。敬老大会の開催日が迫るなか、録音したテープを何度も聞き、自宅の居間やお風呂場で毎晩繰り返し練習を行いました。

当日は、妻が揃えてくれた黒紋付と袴の正装で舞台に上がりました。着物姿は一人前ですが、なにぶんにわか仕込みの歌い手なので、舞台ではとても緊張しました。一日目は歌詞が一瞬出てこないというハプニングもありましたが、二日目は紺野先生や演奏者の方々にサポートしていただき、気持ちを込めて歌うことができました。

「エン・ヤーレン、ソーラン、ソーラン」、歌い終わった後には皆さんから盛大な拍手をいただき、私も嬉しくなりました。また皆さんと会えることを楽しみにしています。